

No. 82

1988.

6. 30

岐阜の博物館

▽501-32 関市小屋名
(百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL0575-28-3111(代)
振替 名古屋 6 37909

余暇生活に應える博物館

岐阜県博物館協会副会長
森崎利光

近頃、新聞の記事で目に止まることは、税制、貿易問題、開発計画など社会面の外に、国民の生活にかかわる問題が多くなったように思う。生活環境の問題とか、労働時間、余暇に関する事などが多く、又地方版には毎日のように、催し物が紹介されるようになった。

総理府のまとめた、「昭和62年度観光白書」によると、レジャー余暇生活に対する国民の関心がここ数年、急速に高まっていることがよく分かる。今後の生活について、国民の32%がレジャー余暇生活に力点を置くことと答え、住生活24%・食生活15%を大きく引き離している。

振り返ってみれば、かつて生活が苦しかった時代は、先ず食を得るために働き、余暇など考える暇さえなかった。今では世界の中でも経済的に富める国となり、物も豊かになり、衣食は満ち足り、住についても大都市は別としても、一応事足りるようになってきた。やはり次に来るものは、生活時間のゆとりを得て、生活をいかにエンジョイするかということである。

現在、わが国の労働時間の年平均は、約2100時間と言われている。欧米先進国においては、1500～1800時間で、夏など1か月のバカンスを楽しんでいる。わが国も今後労働時間の短縮を計り、差し当たり1800時間を目標に、21世紀には1600時間になるという予測もされている。

来年より、金融機関が完全週休二日制を行うようになれば、既に実施している製造業も多く、公務員の週休二日制が実施される日も、そう遠くないように思われる。週休二日制が国民に徹底すれば、国民の生活はゆとりができ、大きく変化することは必定である。

さてこの余暇をどのように使うかは、人それぞれにより異なるのであるが、先ず考えられることは、レジャーとしての旅や観光であり、リゾ

ートにおける休養である。しかし毎週末あちこち遊び回ればお金がかかり、現在の収入ではこれを楽しめる人は、そう多くはないように思われる。そこでカルチャーセンターへ足を運び趣味を深める人、博物館や美術館・図書館へ通い教養を深化させる人も増えてくると考えられる。

このように考えると、余暇生活を楽しめるような環境を作ることが問題になってくる。企業では、あの手この手と策を練り、新聞の広告などでは既に始まっている。一方行政サイドにおいても、教育・福祉の施設も充実し、国民のニーズに應えるよう努められている。近頃では、村起しが叫ばれ地域活性化も、一段と盛んになってきた。

岐阜県には、博物館やその類似施設が多く、日博協出版の博物館研究のVol 23. No 3によれば、北海道・東京の187館、長野の130館に続き岐阜県は115館となっている。現在岐阜県博物館協会へ加盟している館は90館あり、歴史や郷土に関するものが多い。

岐阜県博物館協会では、時代の変化に対応するため、本年度より事業内容や組織の一部を変えた。その一つは、今までのセミナー講座を公開講座とし、一般の皆さんにも参加していただくこととした。二つ目は会員研修と学芸技術員講習会を一体化し、博物館協会会員研修会とし、組織にも位置付けして、役割を明確にした。又県内の博物館等の施設を訪ね易いよう、県内の施設一覧を作成する計画をしている。

時代の変化とともに、博物館に寄せられる期待は大きくなり、国民のニーズに應える博物館となる必要がある。それがため個々の館の充実発展のためにも、博物館協会が協力し合い、研修や交流を深め一層の資質の向上に努めたいものである。
(岐阜県博物館長)

史跡高山城跡 (その1)

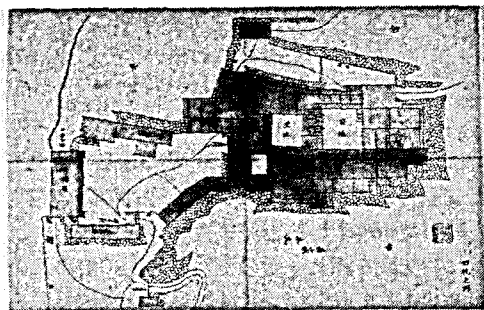
高山市郷土館
学芸員 谷 島 博 之

高山城跡は昭和31年4月7日、岐阜県指定の史跡となり、また「野鳥の生息地」として高山市の天然記念物の指定も受けている。

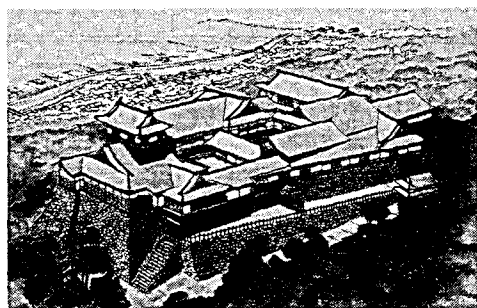
高山城は天正14年飛騨の領主となった金森長近が、同16年から16年かけて築城した。金森氏は長近以後、可重、重頼、頼直、頼業と続き、元禄5年、6代頼昌が出羽国上山へ転封となるまでの107年間続いた。以後飛騨は天領として幕府の直轄地となり、高山城は金沢藩が在番したが、元禄8年取壊しとなった。

高山市教育委員会では、昭和60年秋に城山の本丸の発掘調査を行ない、風呂屋跡、空地、広間南の縁側の遺構が検出され、鉄釘、灯明皿、天目茶碗、スリ鉢などが出土した。これについては昭和61年3月発行の「高山城跡発掘調査報告書Ⅰ」にまとめられているが、発掘成果のほか、地理的にみた城山の自然環境や、高山城の歴史についても収録されている。

次いで昭和61年夏に、第2次発掘調査を行ない、本丸屋形玄関部分の石段、台所下部の石垣等が検出された。これについては昭和63年3月発行の「高山城跡発掘調査報告書Ⅱ」にまとめられているが、本丸周辺や大手・搦手などの現況や、金森氏関連の城の調査により、同氏の築城の特色が明らかとなった。本丸跡は海拔686.1m、城下町からの比高約100mあり、瓢箪形の地形の内、西側が一段高くなった場所の風化し



飛騨国高山城図(本丸)



高山城復元想定図(内藤昌博士考察)

た岩盤の山頂を平坦にならして礎石が据えられているが、堆積物が少ない割にはよく残っている。2回の発掘調査は城の本丸の一部であったが、遺構によって、金沢藩が在番中に作成したと推定される「飛騨国高山城図(本丸)」と符合する箇所が確認された。この絵図によると、後世の独立した天守とちがい、石垣等の構築技術の初期形態として、天然の地山地形に相応した不整形な本丸にあわせて、屋形が建ち並んでいた様子がわかる。

また総合学術調査として、名古屋工業大学の内藤教授によって、発掘結果と全国各地に散在する高山城に関する絵図や古文書などを専門的見地から研究がなされた。復元想定図や各部平面図、小屋伏図等が作製されている。これによると本丸屋形群の西側に二重三層の三階櫓があり、東に向って2列の屋形が接続する。北側の屋形は表にあたり、広間・冊(茶室)・式台・玄関門、南側は奥にあたり、局部屋・風呂屋・台所が連なる。この内天守に相当する三階櫓は屋形の上に望楼を載せた形で、初層の書院は城主の生活の場であり、西側には縁側と勾欄が巡っている。このように天守が本丸屋形の一部である形式は、天守創生期の様態を示しており、日本城郭史上安土城とならぶ歴史的特質を有していることが確認された。

参考文献 ○高山城跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ
○高山城総合学術調査報告書Ⅰ・Ⅱ

齋藤美術館

〒501-42 郡上郡八幡町新町

TEL (05756) 5-3539



6月上旬のある日、齋藤美術館を訪ねた。

郡上郡八幡町のほぼ中心、新町に着き、どこかな？と見廻らすと、古い大きな格式のある家があった。それが齋藤家であった。美術館はすぐ横の道を奥へお入りください、と案内されていた。最近、町の観光事業として、その道に沿って新しい小川が整備された。

40mほど奥へ入り、曲ったところに、周りの景観にマッチした美術館の玄関がある。

新しい建物にもかかわらず、重厚さと優雅さを与えるたたずまいである。入口で、現当主の奥さんが暖かく迎えてくださった。

玄関を入った右側が特別展示室で、そのときは、齋藤家がかつて親交のあった北大路魯山人の食器を中心とした陶器と書画が展示されていた。北大路魯山人の「用と美」のある個性的な作品に目を奪われていると、館内にかすかな香が焚かれていることに気がついた。誠にピッタリの雰囲気づくりが心にくい。

玄関の左側の常設展示室には、大徳寺住持の墨蹟をはじめ、齋藤家が江戸時代以来、茶人として収集愛用してきた茶道具の逸品が展示ケースの中に品よく展示されている。特に狩野洞春の茶掛「水兎月に萩の図」は見る角度により違ったように見えるのは、一見に価する。

常設展示室は更に蔵展示室に続き、齋藤家所蔵の漆器、陶器の他に、正面の六枚折の狩野探信作の屏風「水墨雲龍の図」は迫力がある。また、町重要文化財指定の八幡城主の家紋入紺糸威式枚胴具足一領がデンとかまえている。

蔵展示室を出ると軒先に古くからの掘井戸が保存されている。内部が見えるように照明されているが、立派な構築であることが分かる。

齋藤家には、昔から水琴窟があったが、このたび、新たに茶室とともに水琴窟が広い軒先の下に作られた。杓で水を流すと実にすがすがしい音色を響かせてくれる。傍らにある竹筒に耳を当てて聞くと格別よく聞こえる。

この齋藤美術館は、開館1年にして1万人の入館者を超えたという。長い間、齋藤家に他の人の目に触れることなく所蔵されていた茶道具を中心とし美術品工芸品を死蔵してはならないという現当主の英断によって一般公開にふみ切られたのである。

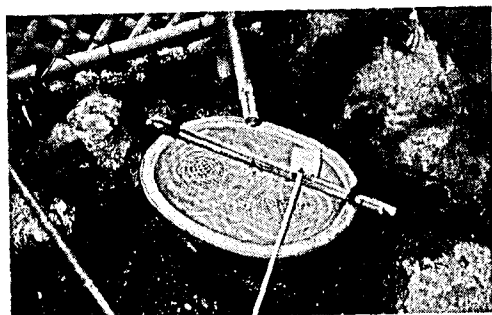
これからも季節ごとに展示取替えを行うとともに、茶の道を通じて、多くの方々の心の憩いの場にしたいと意欲的である。

館を去る前にいただいた抹茶は、また格別であった。

再び入口に戻って、玄関が出口になるが入口には、郡上八幡町の小物を中心とした美しい民芸品が並べられ、帰りのみやげものの便が図られている。

個性ある美術館として、奥美濃の見どころを一つ増やしたことは間違いない。(休館日は、木曜日。問い合わせは、電話 05756 (5) 3539、入館料は一般300円、学生200円)

鳥居甚吾(岐阜県博物館学芸部長)



第36回 岐博協公開講座 昭和63年度 東海博協総会

報 告

1. セミナーから公開講座へ

臨教審（臨時教育審議会）は、その答申の中で生涯教育の重視を提唱しております。文部省は、それを受けて、生涯学習局を設置し、筆頭局に位置づけました。こうした機運の中で、社会教育、特に博物館活動の果たす責務はますます大きくなってきました。

岐博協が昭和55年5月に第1回のセミナーを開催し、その後着実に発展し、今年度の1月で35回を数えました。その間、次第に会員のみならず一般の参加者も増えてきました。そこで、名称を「セミナー」から「公開講座」と変更し、公開講座委員会をさらに充実しました。

公開講座委員を5地区から選任し、各地区の博物館活動の活性化を図りました。また、公開講座を回り持ちにし、特に地域の人々が参加しやすいように配慮しました。地域の生涯学習の場として夢とロマンを広げていただけるものと期待しております。

2. 第36回公開講座

「松倉城の盛衰」 小島幸男氏

「飛騨民俗村」 見学

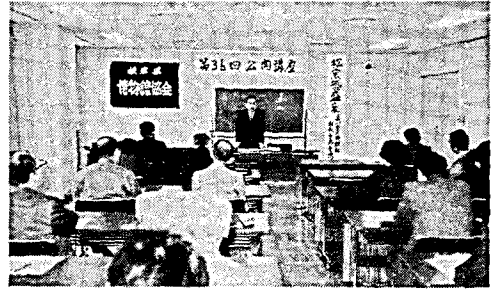
「松倉城址」 見学

とき S 63. 5. 11 (木)

ところ 高山市民文化会館 飛騨民俗村
松倉城址

本年度1回目の公開講座は、飛騨地区の担当で開催され、21名の参加者を得、充実した学習の場を持ちました。一般参加者の中には高山女性史学習会の方が多数おられうれしく思いました。

高山市民情報社社長小島先生は、室町時代の国司あながこうじ姉小路氏の統治から説き起こし、三木みつぎ氏の台頭、三木自綱みきよりつなの築城及び落城の経緯等を年表



を中心に詳細に話されました。松倉城の築城に7年もかかったこと、規模の大きさ、三木良頼よしより、自綱くげの公郷狂い、秀綱の逃亡等興味深く聴きました。

新緑の飛騨民俗村では、家屋の解説を聞き、雪国の生活様式がよく理解できました。各家屋のいろいろの火が飛騨の人の心のあたたかさを感ぜさせ、印象的でした。

3. 本年度の予定

第37回公開講座 8月6日(土)

於 白鳥町北濃小学校

内容 講演「中世に起源を

発する民俗芸能」

第38回公開講座 10月30日(日)

於 岐阜県博物館

内容 「中生代の化石」展及び講演

第39回公開講座 2月中旬

於 美濃市文化会館

内容 未定

4. 東海地区博物館連絡協議会総会

昭和63年度東海地区博物館連絡協議会総会が6月16日(木)、17日(金)に名古屋市（王山会館、名古屋市美術館、徳川美術館）で行われました。「ミュージアムショップについて」討論会が開かれ、博石館の細田乃婦子さんが事例発表をされ、大変好評でした。

昭和63年度

岐阜県博物館協会総会開かる

＝ 専門委員会の組織拡充 ＝

1. 協会役員を選任について

本年度の岐阜県博物館協会通常総会において役員の一部が次の通り選任されましたので報告します。

- ・会長 蒔田 浩（岐阜市長）
- ・副会長 平田吉郎（高山市長）
- 〃 青木允夫（内藤記念くすり博物館）
- ・〃 森崎利光（岐阜県博物館）
- ・理事長 松本五三（郡上八幡民芸美術館）

7月～8月にかけて、アンケートを実施し、それをふまえて、研修会を開催します。第一回は9月の予定です。

- 委員
- 今井雅巳（岐阜県博物館）
 - 吉本直美（内藤記念くすり博）
 - 中井正幸（大垣市社会教育課）
 - 斎藤基生（豊蔵資料館）
 - 篠原徳昭（博石館）
 - 小山 司（飛騨民俗村）

2. 専門委員会の位置付け

本協議会の貴重な歴史を語る機関紙「岐阜の博物館」、及び各館・園の職員・会員が総合的技術の研修を行い、資質向上を図る会員研修会。この二つの充実・発展のため、総会において次の専門委員会が位置づけられ、組織の拡充が図られました。選任された委員の方々を紹介します。

機関紙委員会

◎委員長

県内各園・館の催し物等の積極的PRと調査研究、実践記録の充実を図る。

○委員

- 川瀬善忠（岐阜県博物館）
- 安藤志郎（ 〃 ）
- 林 祐子（内藤記念くすり博）
- 稲垣裕美（ 〃 ）
- 土山公仁（岐阜市歴史博物館）
- 加藤よね子（岐阜県陶磁資料館）
- 三島藤男（日下部民芸館）

研修委員会

年3回研修会を予定。

◎委員長

国光正宏（岐阜県博物館）



3. 東海三県交流研修会案内

第13回東海三県博物館協会交流研修会の大綱がまとまりましたので、お知らせします。

期日 昭和63年10月18日(火)～19日(休)

会場 海津郡海津町高須

海津町文化センター

宿泊所 海津町老人福祉センター「海津苑」

参加費 10,000円

開催要項、参加申込書は9月に配布します。

昭和62年度 岐阜県博物館協会歳入歳出決算書

歳入総額 1,076,196円
 歳出総額 927,968円
 差引残高 148,228円

★歳入の部★

科 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減 (△)	備 考
前年度より繰越金	123,768 ^円	123,768 ^円	0 ^円	
会 費	483,000	461,000	△ 22,000	
補 助 金	490,000	490,000	0	
雑 入	2,232	1,428	△ 804	預金利息
合 計	1,099,000	1,076,196	△ 22,804	

★歳出の部★

科 目	予 算 額	支 出 済 額	残 額	備 考
事務局費	170,000 ^円	163,832 ^円	6,168 ^円	
通信運搬費	130,000	127,332	2,668	
印刷費	20,000	16,500	3,500	
需用費	20,000	20,000	0	
機関紙費	357,000	323,263	33,737	年4回発行
印刷費	200,000	178,200	21,800	
送材料費	70,000	70,000	0	
取会材費	77,000	65,713	11,287	
議費	10,000	9,350	650	
セミナー費	170,000	92,520	77,480	年4回開催
開催費	120,000	48,428	71,572	
印刷費	10,000	10,000	0	
通信運搬費	30,000	25,182	4,818	
会議費	10,000	8,910	1,090	
三県交流研修費	18,000	16,535	1,465	
東海博総会費	55,000	53,004	1,996	
日博協全国大会	125,000	123,982	1,018	
總會費	48,000	30,000	18,000	
通信運搬費	15,000	15,000	0	
食糧費	33,000	15,000	18,000	
協会会員研修会費	60,000	56,294	3,706	年3回開催
学芸技術員講習会費	5,000	0	5,000	
常任理事会費	70,000	60,663	9,337	
会議費	25,000	17,000	8,000	
旅費	45,000	43,663	1,337	
表彰費	10,000	7,875	2,125	
振替手数料	1,000	0	1,000	
慶弔費	10,000	0	10,000	
予備費	0	0	0	
合 計	1,099,000	927,968	171,032	

昭和63年度 岐阜県博物館協会歳入歳出予算

★ 歳入の部 ★

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
繰 越 金	147,228 ^円	123,768 ^円	23,460 ^円	前年度より
会 費	513,000	483,000	30,000	
補 助 金	490,000	490,000	0	
雑 入	1,772	2,232	△ 460	預金利息
合 計	1,152,000	1,099,000	53,000	

★ 歳出の部 ★

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
事 務 局 費	170,000 ^円	170,000 ^円	0 ^円	
通 信 運 搬 費	130,000	130,000	0	
印 刷 費	20,000	20,000	0	
需 用 費	20,000	20,000	0	
機 関 紙 費	437,000	357,000	80,000	年4回発行
印 刷 費	300,000	200,000	100,000	
通 信 運 搬 費	70,000	70,000	0	
取 材 費	57,000	77,000	△ 20,000	
会 議 費	10,000	10,000	0	
公 開 講 座 費	140,000	170,000	△ 30,000	年4回開催
開 催 費	90,000	120,000	△ 30,000	
印 刷 費	10,000	10,000	0	
通 信 運 搬 費	30,000	30,000	0	
会 議 費	10,000	10,000	0	
三 県 交 流 研 修 費	100,000	18,000	82,000	
東 海 博 総 会 費	32,000	55,000	△ 23,000	
日 博 協 全 国 大 会 費	54,000	125,000	△ 71,000	
総 会 費	73,000	48,000	25,000	
通 信 運 搬 費	15,000	15,000	0	
食 糧 費	33,000	33,000	0	
会 議 費	25,000	0	25,000	
協 会 会 員 研 修 会 費	60,000	60,000	0	年3回開催
学 芸 技 術 員 講 習 会 費	0	5,000	△ 5,000	
常 任 理 事 会 費	70,000	70,000	0	
会 議 費	30,000	25,000	5,000	
旅 費	40,000	45,000	△ 5,000	
表 彰 費	14,000	10,000	4,000	
振 替 手 数 料	1,000	1,000	0	
慶 弔 費	1,000	10,000	△ 9,000	
予 備 費	0	0	0	
合 計	1,152,000	1,099,000	53,000	

● 次の2氏が表彰されました。

◇岐阜県博物館協会表彰 (63. 5. 10)

大前 昭蔵氏 (下呂温泉合掌村)

昭和46年から16年間合掌村に勤務し、民俗資料の収集、管理業務に誠心誠意努力されました。

◇東海地区博物館連絡協議会表彰 (63. 6. 16)

名和 秀雄氏 (名和昆虫博物館)

昆虫の研究に多大の功績をあげられ、昆虫学のみならず自然教育の分野で広く活躍されました。

● 県内館・園紹介パンフレット(仮称)
の作製、63年度中に

岐阜県博物館協会に加盟している館・園の紹介をし、多くの人に県内の館・園を見てもらおうと作られた博物館マップに変わり、本年度中にパンフレット程度の案内を作製することになりました。版元を協会で作ることに決定しました。ご期待下さい。

● 新入館・園紹介

63年4月入会

○馬瀬村歴史民俗資料館

▽ 509-26

益田郡馬瀬村

TEL 057647-2111

63年5月入会

○大垣市郷土館

▽ 503

大垣市丸の内2丁目4番地

TEL 0583-75-1231

○各務原市歴史民俗資料館

▽ 504

各務原市那加桜町2丁目186番地

TEL 0583-83-1111 (内728)

● 「全日本博物館学会」の紹介

第14回全日本博物館学会研究大会が6月5日(日)、東京の国学院大学で開催されました。日本の博物館に勤める学芸員300余名で結成される学会で、今年は15周年の記念大会でした。

研究発表では、広瀬鎮氏(名古屋学院大)をはじめ、5件の発表がありとてもためになりました。また、特別講演会は『博物館の今日的命題』と題して、樋口清之先生(全日本博物館学会会長)が「学芸員が夢と誇りをもって働き得る環境づくりが、器をつくりあげた後の日本の博物館の最重要課題である。モノを生かすヒトが明日の社会のために存分に働ける状況をつくりたい。」と、80才とは思えぬ若さと情熱で語られました。

全日本博物館学会は、博物館に関心のある方なら誰でも加入でき、研修会等に参加できます。1人でも多くの方に仲間になっていただけたらと思います。いかがですか。(年会費は3000円です) 今井雅巳(岐阜県博物館学芸員)

● 中部未来博88記念展 — 中山道
美濃十六宿開幕

岐阜県博物館で、この夏の一大イベント「ぎふ中部未来博」を記念して、中部未来博88記念展「中山道—美濃十六宿」が開幕しました。

この記念展では、美濃十六宿を中心とした中山道の歴史や、大名や庶民の旅のようす、中山道を中心とした美濃の文化などを紹介します。

会期は7月13日(水)から9月15日(祝)までです。

編集後記

加入館・園の情報(催し物・企画など)をできるだけ多く掲載したいと思います。機関紙委員へご遠慮なく申し出て下さい。

各館・園の調査研究、実践記録等の情報もどしどし寄せて下さい。